

1) 発生場所別の熱中症による救急搬送人員（令和 4 年実績）

① 東京都の熱中症による救急搬送人員

令和 4 年 6 月から 9 月までの東京都（稲城市・島しょ地区を除く）の発生場所別熱中症救急搬送人員割合を確認した。

住居等居住場所で発生した救急搬送が、全体の 41%と最も高い割合を占めている。居住場所は、敷地内の全ての場所を含むため全てが屋内ではないが、東京都全体でみると、熱中症の発生が屋内であるケースも多いものと推測される。

また、月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合の変化を確認した。期間を通じて、住居等居住場所での発生割合は、高い水準で推移していることが確認できる。

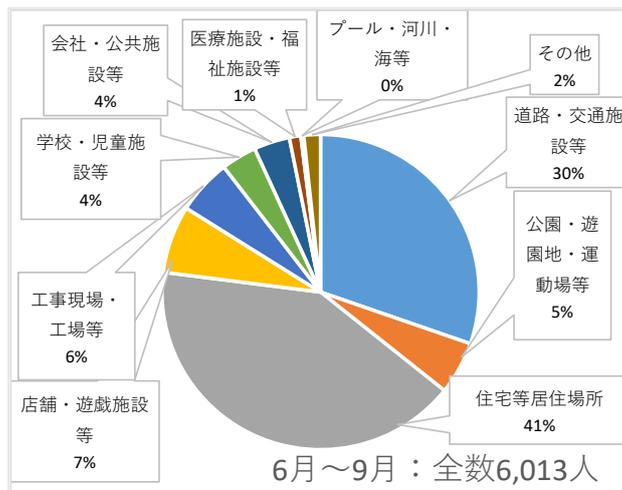


図 1 令和 4 年 6 月から 9 月までの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成
 注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

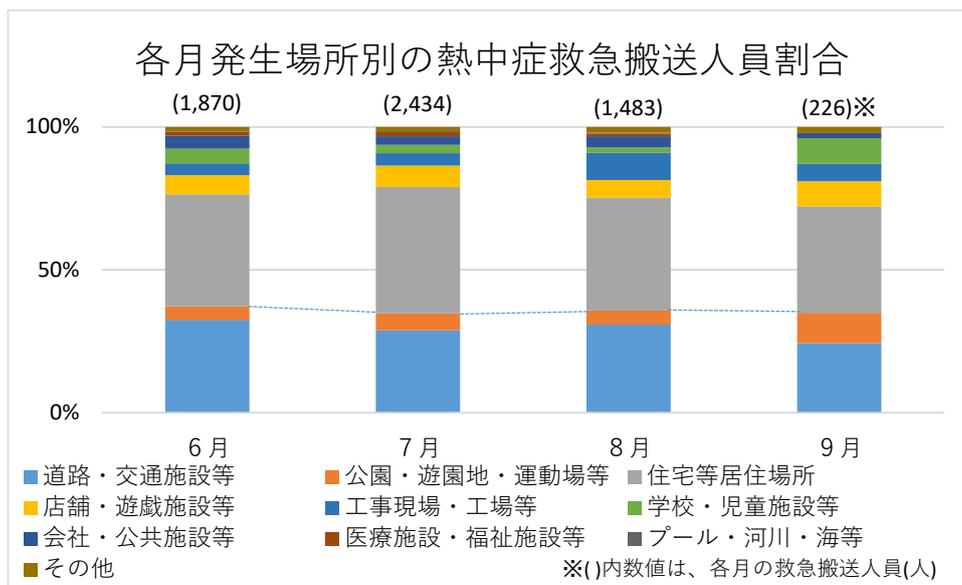


図 2 令和 4 年の月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成
 注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

② 千代田区の熱中症による救急搬送人員

令和4年6月から9月までの千代田区の発生場所別熱中症救急搬送人員割合を確認した。

東京都全体で最も高い割合で救急搬送が発生した住居等居住場所が千代田区では11%であったことに対して、道路・交通施設等の割合が最も高く52%となっている。これは、千代田区では夜間人口より昼間人口の方が約13倍と多いため、道路・交通施設等の場所で熱中症により救急搬送される人員が多いものと推測される。

また、月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合の変化を確認した。搬送者数の多い7月・8月において、道路・交通施設等での発生割合が高くなっている。東京都全体のデータに比べ、千代田区では最も気温の高い時期に、道路・交通施設等の場所で発生する熱中症が多くなる傾向があることが確認できる。

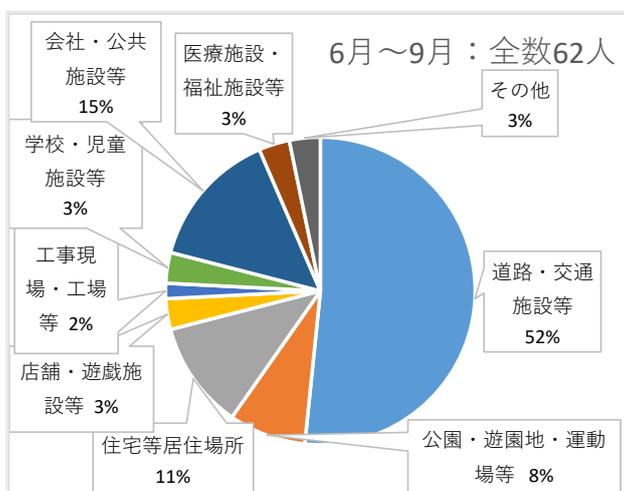


図3 令和4年6月から9月までの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

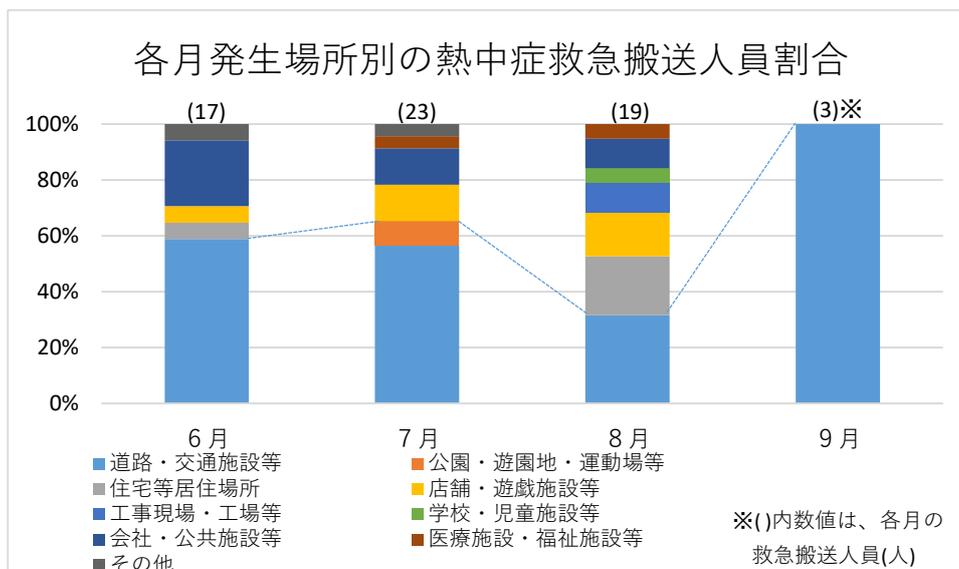


図4 令和4年の月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

2) 発生時間別の熱中症による救急搬送人員（令和4年実績）

① 東京都の熱中症による救急搬送人員

令和4年6月から9月までの東京都（稲城市・島しょ地区を除く）の発生時間別熱中症救急搬送人員数を確認した。

気温が高くなる11時台から16時台までの時間帯で、救急搬送人員が顕著に増加していることが確認できる。一方で、日中よりも気温が低下する深夜から明け方の時間帯にも、数は少ないが熱中症による救急搬送事例が発生していることが確認できる。

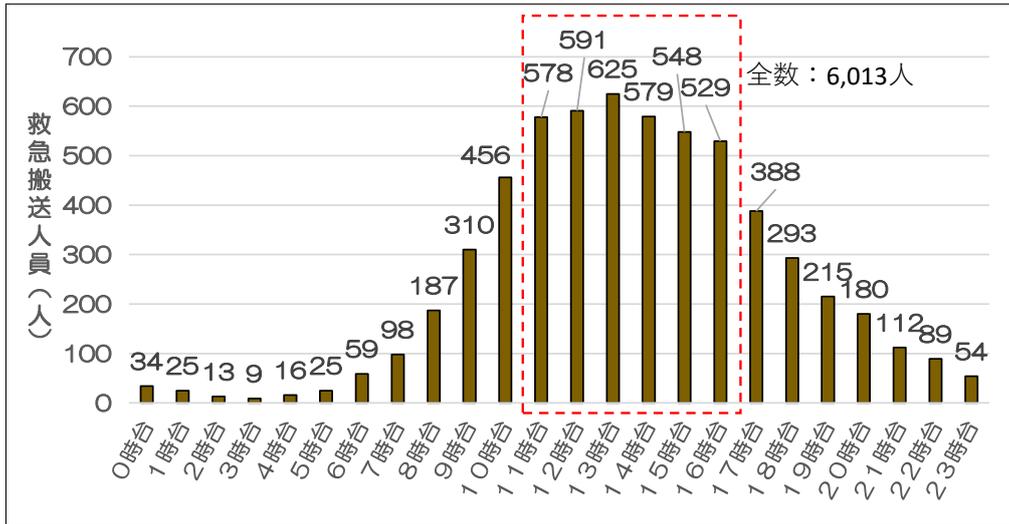


図5 令和4年6月から9月までの発生時間別熱中症救急搬送人員（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

② 千代田区の熱中症による救急搬送人員

令和4年6月から9月までの千代田区の発生時間別熱中症救急搬送人員数を確認した。

8時台から20時台までの時間帯で、救急搬送人員が発生し、東京都と同じように12時台から15時台に救急搬送人員が多くなることが確認できる。一方で、夜間から早朝にかけての時間帯には、熱中症による救急搬送事例は発生していないことが確認できる。

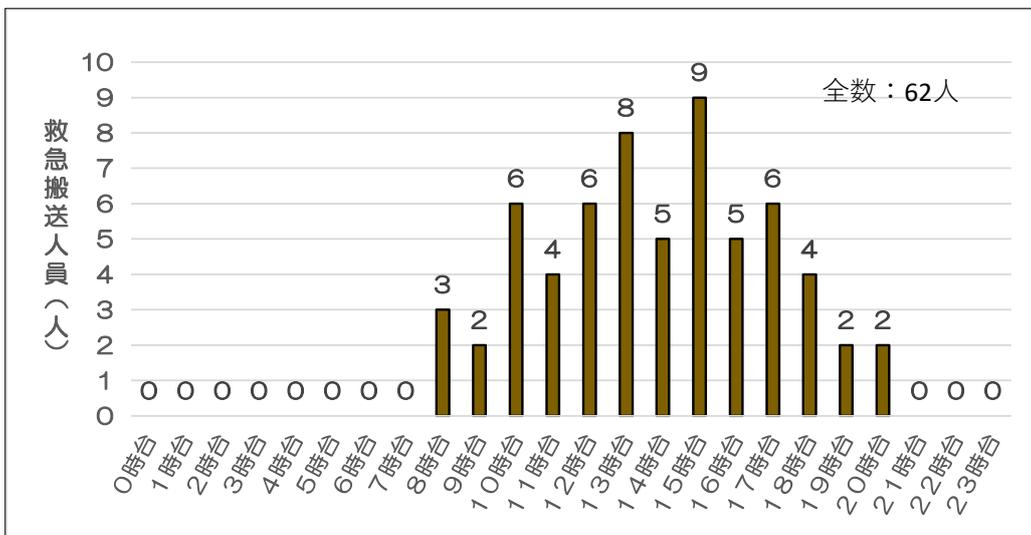


図6 令和4年6月から9月までの発生時間別熱中症救急搬送人員（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

【参考】1) 発生場所別の熱中症による救急搬送人員（令和3年実績）

① 東京都の熱中症による救急搬送人員

令和3年6月から9月までの東京都（稲城市・島しょ地区を除く）の発生場所別熱中症救急搬送人員割合を確認した。

住居等居住場所で発生した救急搬送が、全体の37%と最も高い割合を占めている。居住場所は、敷地内の全ての場所を含むため全てが屋内ではないが、東京都全体でみると、熱中症の発生が屋内であるケースも多いものと推測される。

また、月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合の変化を確認した。期間を通じて、住居等居住場所での発生割合は、高い水準で推移していることが確認できる。

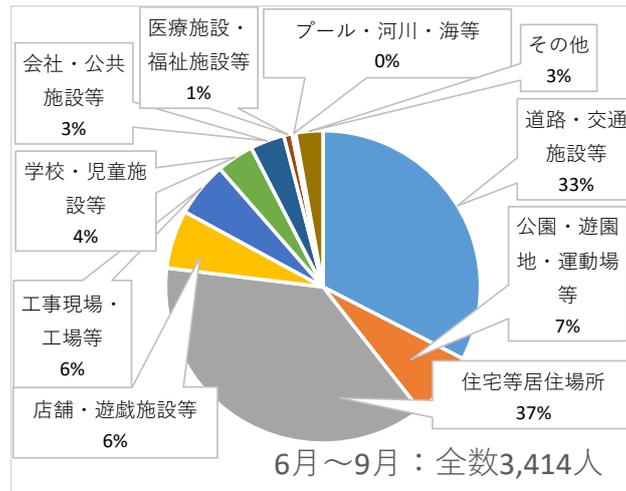


図7 令和3年6月から9月までの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成
注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

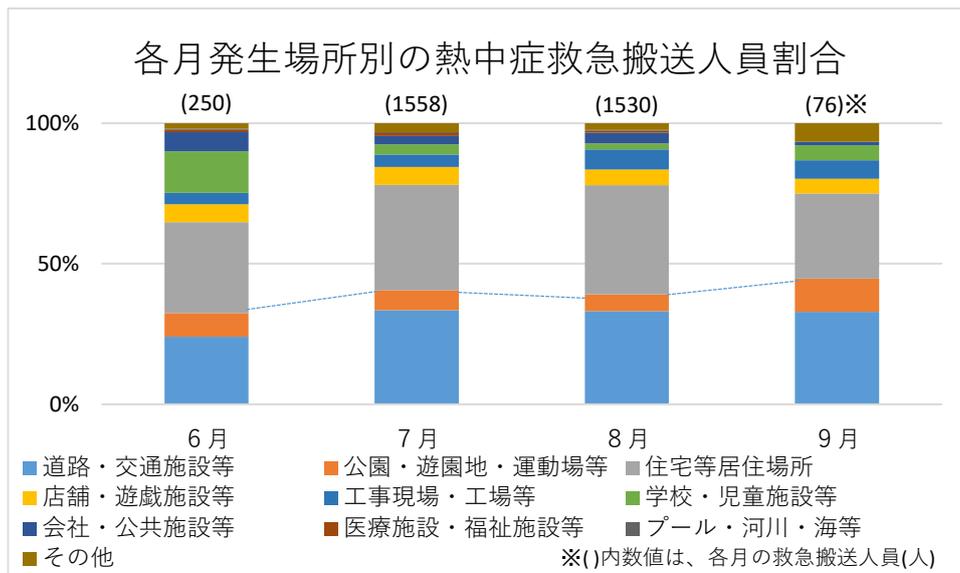


図8 月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成
注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

② 千代田区の熱中症による救急搬送人員

令和3年6月から9月までの千代田区の発生場所別熱中症救急搬送人員割合を確認した。

東京都全体で最も高い割合で救急搬送が発生した住居等居住場所が千代田区では9%であったことに対して、道路・交通施設等の割合が最も高く57%となっている。これは、千代田区では夜間人口より昼間人口の方が約13倍と多いため、道路・交通施設等の場所で熱中症により救急搬送される人員が多いものと推測される。

また、月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合の変化を確認した。搬送者数の多い7月・8月において、道路・交通施設等での発生割合が高くなっている。東京都全体のデータに比べ、千代田区では最も気温の高い時期に、道路・交通施設等の場所で発生する熱中症が多くなる傾向があることが確認できる。

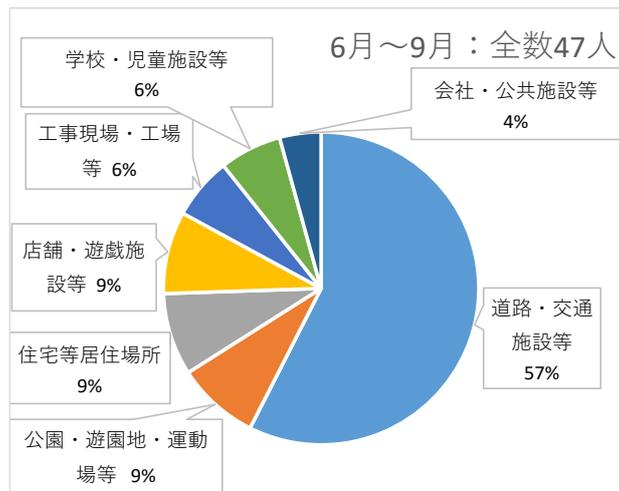


図9 令和3年6月から9月までの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

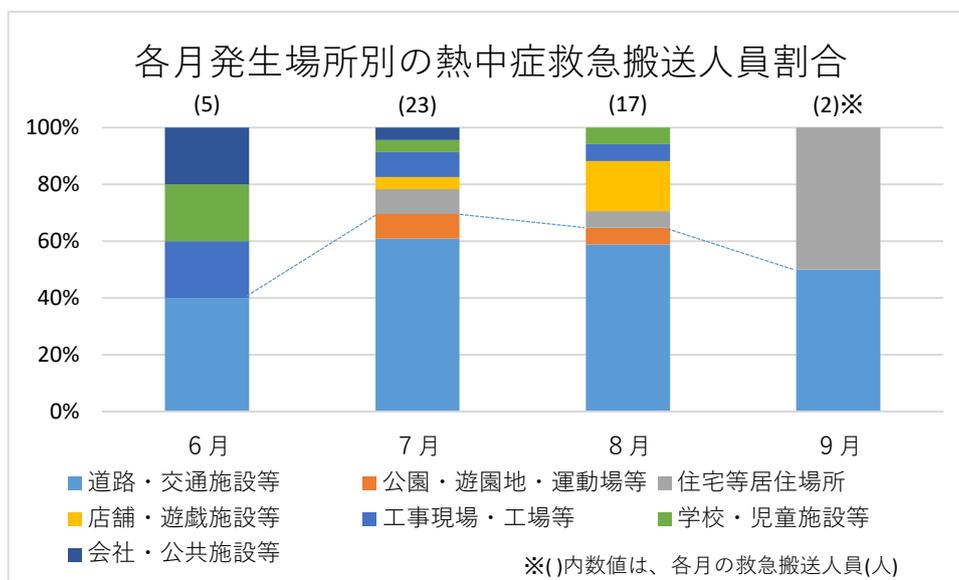


図10 月ごとの発生場所別熱中症救急搬送人員割合（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

2) 発生時間別の熱中症による救急搬送人員（令和3年実績）

① 東京都の熱中症による救急搬送人員

令和3年6月から9月までの東京都（稲城市・島しょ地区を除く）の発生時間別熱中症救急搬送人員数を確認した。

気温が高くなる11時台から16時台までの時間帯で、救急搬送人員が顕著に増加していることが確認できる。一方で、日中よりも気温が低下する深夜から明け方の時間帯にも、数は少ないが熱中症による救急搬送事例が発生していることが確認できる。

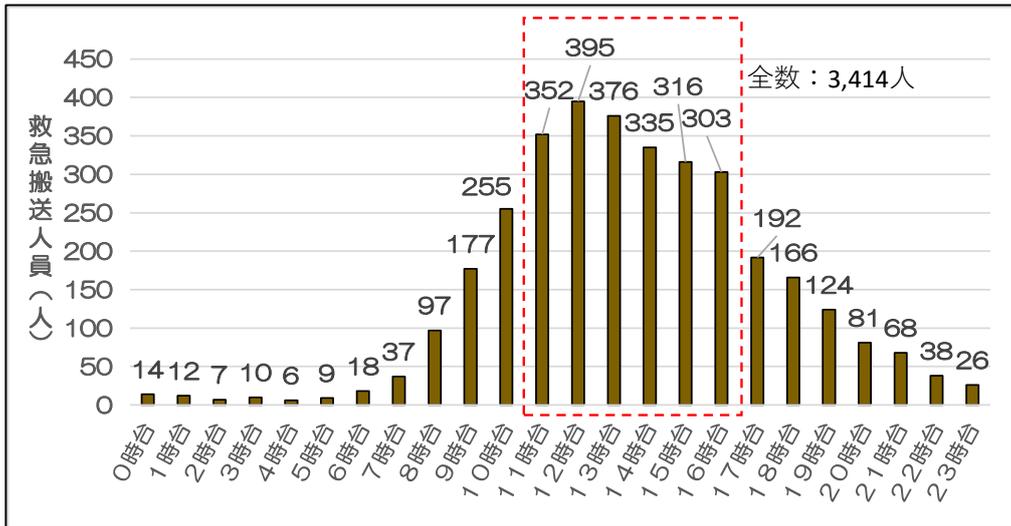


図11 令和3年6月から9月までの発生時間別熱中症救急搬送人員（東京都）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成

注：稲城市、島しょ地区を除いたデータ

③ 千代田区の熱中症による救急搬送人員

令和3年6月から9月までの千代田区の発生時間別熱中症救急搬送人員数を確認した。

通勤時間の9時台及び日中の13時台前後の時間帯で、救急搬送人員が顕著に増加していることが確認できる。一方で、夜間から早朝にかけての時間帯には、熱中症による救急搬送事例は発生していないことが確認できる。

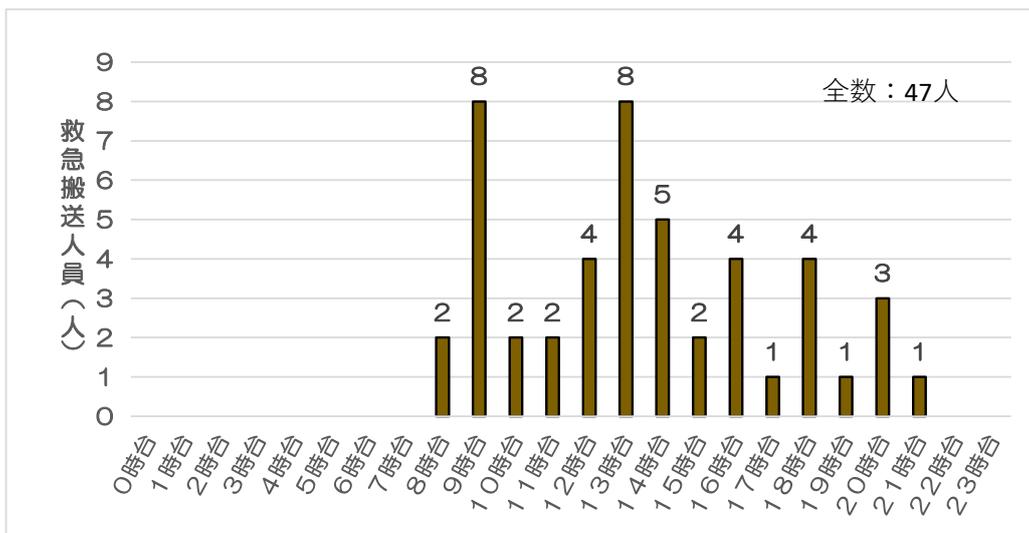


図12 令和3年6月から9月までの発生時間別熱中症救急搬送人員（千代田区）

出典：東京消防庁提供によるデータから作成